風地蔵新聞

第１１７号
発行　編集
風地蔵
白石　美帆
〒503-0922
岐阜県大垣市
馬場町８５

ヤフーブログ
毎日更新中
炎の女みほ日記
http://blogs.yahoo.co.jp/rion5230

カシマシムスメ

大橋　美紀

私には高校時代からの友達が３人居ます。卒業してからは、結婚するまで、今でいう「クラブ」に遊びに行ったり、飲みにいったり、旅行に行ってました。私が４人の中で１番最初に結婚する事になり３人の１年後に最後の１人も結婚しました。結婚後も、ご主人とも友達になり、子どもも年々増えていき、家族ぐるみの付き合いとなりました。夏にはバーベキュウを河原でしたり、冬は各家で鍋パーティーをしたり、楽しい年数を過ごしました。しかし、子供が大きくなり、少年団や部活で親も忙しくなってきて、次第に皆で集まる事も減ってきました。最近、４人で会う事も多くなりましたが、さすがに夜出かける事は出来ませんので、昼間にランチやお茶をしながらおしゃべりを楽しんでいます。子供中心の話から、主人の話し、会えば互いの愚痴になってしまうのですが、たまに会って話すのは、スレスんどんたがは散出まらどず、んが発ま検診多健康思来るず、ま題は、まで小学生さまんすどとが会だこ話ることの広話がくのが中番がくのっがり話近ての頃足診に行なの最ての検診に行なの最ての足診に行なの最ての足診に行なの最ての足

川風

しらいしみほ

父の日、ってわけじゃないけど、ふたりのお墓参りに行った。数日前、じいちゃんとばあちゃんが眠る、ふるさと小川の専行寺から年に1度の納骨堂法要のハガキが届いてた。最近は、日曜日も、ダンナちゃんの土木の学校やら、個人的に頼まれた仕事やら、りおんのことやらで、どこにも行かずに過ごした2カ月。カレンダーを見て、何にも予定が入ってなかったので「よし行こう！」と決めていた。「あしたさあ、小川のじいちゃんの法要に行かん？」と前日に言うと、「いいよぉ」といい返事をしてくれる。「あ～ちょうど、当番って書いてある。当番の人は10時までに来て下さいやって。仮面ライダー見てからでも間に合うなあ。」と笑ってたら、ゴルフで楽しみの番組がつぶれてたので、8時過ぎには家を出た。

我が家から、太宰府インターまで、4～5分。「近道教えてやろうか。」と、言われた道は、りおんが公共交通機関が動いてない、一番勤務の時、4時半に送って行く道だ！「あ～ここ、しっとるし。空港まで送るときここいくわ～。」父の日の、前日、りおんの2度目の給料日だった。家に5万円入れる。生活費のそのうち2万円は、自立日のための蓄え。初任給が少なかったので、約2万円貸しているので、7万をもらう約束の日だった。「給料、少なかった1万4000円を鬼のようにかっさらい、携帯代と、定期代を払いに行った。そして、それを紙に書き出した。うっぷしてるりおんに「りおん、3万はもらう。2万の貯金は、給料が上がってからにしよう。あと、2万貸した分は、ボーナスの時に返して。そしたら、4万ちょっとはあるけん。だいじに使い。」ようやく落ち着いたりおんも、前の晩、ネットで会社の給与を調べたりして、「15万て書いてあるとに、うそばっか！」の内訳のせつめいをした。社会保険や、税金がひかれている事、手厚い保障がある事などなど。それにしても、あの労働で、この数字はないやろうとも、心で思わずにも居られなかった。「ずっと給料変わらんらしい！」と、りおんが落胆してたけど、それはどうなのだろう。ずっとこのままではないとも思うけど。ま、落ち着いて日曜の朝も、4時に起き仕度をし、6時には家を出た。あたしたちは、小川へ向かう。墓参りは、大垣にいた頃も、帰って来た時とかに行ってたけど、会費だけ払って、こうした法要に出るのは初めてだ。「あら～みほさんじゃないね。」と、専行寺住職の声。その人は、あたしの園長先生でもあるのだ。今は、お寺はお寺で、保育園は別の場所でやられてるけど、あたしが小さい頃は、このお寺が保育園で、境内が遊び場でもあり、学びの場でもあった。その名も専行寺保育園の卒園生だったあたしの園長先生は、いまもあの頃とまったく同じいい声だし、ばつぐんの良さと気配りの持ち主のまんまだ。みほは、御仏（みほとけ）のみほだと思っていたあたし。園長先生が小さいあたしにいつも言ってた。意味は知らずとも、うれしかった。蓮仏（れんぶつ）し。11万4000円しかはいっとらん。お母さんに7万払って、定期代、1万7600円払って、携帯代、1800円払ったら、もういくらも残っとらんし！うち、朝4時から夜11時まで働いて、何でこんだけしかないんか意味わからん。もういややー。」と財布の中身を玄関中にばらまいたりおんのパニック事件があったのだ。「もっていけー！ばかやろー！！」給料もらったのに、まっすぐ家に帰ってくるし、不貞寝してたわけだ。散らばった中から、何も言わず、1ということこの地の名前からして、仏さんの祭りの日にはあたしの住む地で、御仏様が生まれたと思っていた。小学校の地域の集まりの時、先生が、「蓮仏のもんは、ほとけさんのごつ、だまっとる。なんか、しゃべらんか！」と言われた時に、いちばんに園長先生に悪いと、小学校1・2年のあたしは、顔を真っ赤にして思ったことを思い出す。20人ほどのふるさとに住み続けてらっしゃる地元のおじちゃんおばちゃんたちが集まって、ありがたいお経を聞き、お弁当を食べた。当番と言っても、テーブルとお茶を出しただけで申し訳ないくらいの当番だったが、集まりの席で、住職があたし達を紹介して下さったりして、うれしかった。そして「西本願寺のお数珠と、他の宗派のお数珠の違い」を教えてくれた。本堂の真裏の納骨堂が出来るときに、うちのじいちゃんが携わってたとか、じいちゃんに表札を作ってもらって、今でも門にあるんだと、何人もの方が言ってくれたりして、知った人は一人もいなかったけど、学生の頃までしかいなかった小さかった世界が、一気に広がり、縁を感じた瞬間だった。帰りの車の中で、「次はあたしが、集まりの先頭に立って・・」などと、妄想が膨らみ、いやいや、若造が、諸先輩方をさしおいて何を言うかとすぐにかき消したりしながら、クスッと笑う。

「どうした？」と、運転席の声。「だってさ～！！園長先生が、納骨堂でお経さんあげて、焼香しとるとき、横のおばあちゃんが、どなたですか？って聞いて来てさ、田中正って書いてある納骨堂をさわって、ここです！って答えると、あら～、そうですか。福岡からわざわざ？息子さんと？って！！！」「はあ～～！！」「息子じゃないです。だんなです！！」「あら～若いだんなさん。」「いいえ、若くないです。」「でも、正さんとこの娘さんの年なら・・・」「いいえ、正さんの下から2番目の息子の子で、孫です！」「あら～、じゃあ、若く見えるだんなさんで。」と、お経中じゃなかったら、大爆笑の会話である。ダンナちゃんは、気を良くして、「毎年、行こう。しかも、うちは2人だったつだけん、会費はもっと多く出さないかんとじゃないや？」と、車中は盛り上がるふるさとからの帰路でした。さっき帰ってから、ダンナちゃんのお父さんの墓参りにも行って、なんかあったかいきもちの幸せな初夏の夕暮れです。

その夜。夜11時に駅についたりおんはその足で、ちゃりで、あたしからこっそり聞いてたお父さんが欲しがっていたボンジョビのCDを買いに行き、30分後に帰ってきた。起こして、手渡されたお父さんはしばらく動かなかった。真夜中に聞く、ボンジョビはこうも涙が出るのかと思うのでした。

普段から良きものを

原　由里子

毎年、6月の第3日曜日は父の日。父にやってくる、普段何もしてない私が、一年に一度、父親に何かを兼ねなく出る日でもあります。母の日には、足かのいや、かとサのガサをとっ洗てきてくれ行くにうちにてくれるいくしたいクルリーベムやはがのつでいイクて嫌いがるたやいい物ありました。父のさて、

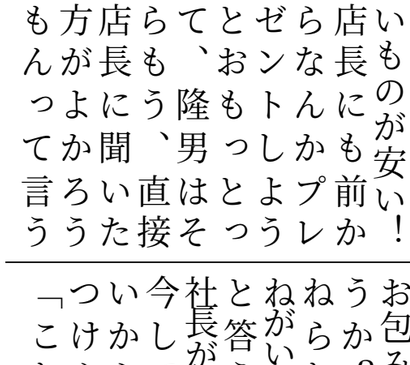
日です。何にしよう。新聞のCMチラシや、お店のディスプレイの全て父の日一色です。昔は母にもプレゼントしました。今は「シャレた女子テテテ」「ココ」と、若い人が着れるよう人なプリネーミングもおしゃれです。「今年の中を徘徊し、結局決まらず帰ると言う日が続きました。父の日がい

ゼンテコをプレ。ントしまスゼ。ンテ。ンテ。ンテ

九州旅行

鎌澤　宣子

佐賀の鳥栖のモアウトレットに着いたら、まずは駐車場を確保しなくては。駐車場の広さ。ここは、大垣から福岡に向かう車の中で、突然社長が、「時計っ眼鏡かどちがいい？」と言いだした。「いつも、店長は時計もしないで、ねてるし、めがおもんしと入る。社長に必要な、靴とかばんと時計を初めて行った鳥栖で買っていたものが安い！店長にも前からゼンプレゼントしようとおもっとようと、隆男はそれらも、直接聞いたらいろいろ言うて、店長がっかりして言うて、一番近いお立体駐車場を渡り直接橋を、橋の道に入るのだ。アウトレットの周りは比べ物にならないくらい大きい。



けど、乱視と近視が入ってるんで、老眼と眼鏡はね、むずかしかつ、すぐには出来ないんで、まいます。眼鏡すいと変えたいと、きいて、「そうったい。」「そうよ。」「あ！わかりがとる。」

「これは、去年息子からのプレゼントなので、はずせません。」

「じゃあ、時計買っても意味ないやん。」「私。」

「絶対使わんな～んやそれ。」

「社長は、方がん。息子ものが大事やる時、リーちゃん外で、座って、」「そうね。」「しやん。」「息子はとまと話す。」

「けるの時計、お息掛ずに付けお言ってい店子必時はと出ずと付けお言っています。」「たがいまうまし腑に落ちていなよ。」

時間も遅くなり、隆男さんは帰ってくるんうでした。

リーちゃんの上着がないから、見てましたが、結局何も買わず帰る事にしました。夜は、隆男さんお薦めのカルビクッパが辛くておいしい焼き肉屋さんに隆男さんのお母さんも一緒に行く事になっていました。久しぶりに出来るのお会いしてドキドキ。

「ちょっと俳句」

がおかゆを作って行きました。この続きは次回まで。

たらいぶね
いちどでいいよ
のってみよ
青木　二葉

（出産間近の妻を見て一句）
台風が去ったと喜ぶ月初め
月末には我が家に台風発生します
のりとし

自分でも
何がしたいか
わからない
大垣デンタ郎

久しぶり
くつろぎ
できた
風地蔵

一郎

手の中で
はねて
こしょばい
雨蛙
青風

春の山
子犬拾うて
叱られて
山へ返せと
子狐と知り
青風

白き指
まねき
はらいて
糸桜
青風

7月号　変な広告

造園の仕事は庭という「かたち」を考えて作るのがひとつ。

それだけではなくって、お客さんの支離滅裂ないろんな思いを整理して、
話を一通り聞いてから、丁寧に説得して、
「あなたの心の中にある本当に欲しい庭はこれでですよね？」と
すっと提案する大きな仕事があります。

これはなかなか大変でめんどくさいことです。

しかしながら、この繰り返しをしていくのが「仕事」だと思っています。
これが出来てはじめて「プロフェッショナル」と言えるのではないでしょうか。
（ウチのタウンページの広告より）

毎年、年間30万円くらいかけて、変な広告だしています。
当然のことながら変なお客さんから連絡があり、変な庭が出来上がります。
変なお客さん×変な庭師＝面白い庭

庭師　奥田良樹